

総合事故復旧訓練

列車事故など緊急時における対応力の強化を目的とした訓練を定期的実施しています。平成19年11月に、淀車庫において列車通過直前の踏切道に自動車が突然進入してきたとの想定で実施しました。近畿運輸局・警察署・消防署の協力のもとで合計約170名が参加し、人命救助・避難誘導・二次災害防止・正確な情報伝達がスムーズにかつ確実に行えるよう、対応能力の強化を図りました。

また、この訓練には社長が参加し、訓示しました。



◀ 総合事故復旧訓練



総合防災訓練

天変地異や災害などに対して、適切に対応できる能力の向上を目的とした訓練を定期的実施しています。平成19年は9月に、列車内で薬物テロによる被害が発生したとの想定で実施しました。近畿運輸局・警察署・消防署の協力により合計約170名が参加し、初期対応・情報の伝達・避難誘導・関係機関との連携・二次災害防止と防災意識の向上を図りました。



▲ 総合防災訓練 ▲

トップ巡視

年末年始の輸送などに関する安全総点検の実施にあたり、平成19年12月6日と7日の2日間、社長を筆頭に安全統括管理者・鉄道保安総合委員会委員が主要駅・列車区・車両基地・重要施設などの査察と列車添乗を行いました。



◀ 社長、担当役員の巡視

脱線復旧訓練

車両部門では、不測の事故などで車両が脱線した場合に備え、脱線復旧訓練を実施するとともに、夜間・休日でも速やかに対応できるよう、緊急時連絡体制を確立しています。また平成18年度より、地下線などの狭い場所にも対応可能な新型の脱線復旧機材を導入しています。



▲ 脱線復旧訓練

Message

脱線復旧訓練では、さまざまな状況を想定して速やかに車両を復旧させることと、大きな声で合図を確実にして安全に作業を行うことに留意しています。



西井 利之
【鉄道事業部 車両課】

地下線内火災想定訓練

緊急事態想定訓練として、地下線走行中に車両から発煙したことを想定した訓練を運転士・車掌・駅係員・操車助役を対象に実施しています。営業運転終了後、実際に列車を走行させ、お客さまの救出、避難誘導、消火作業が迅速、的確に行えるよう、緊迫した訓練を行っています。冷静な判断力や作業員の連携を養い、万々に備えています。



▲ 地下線内火災想定訓練

日々の安全運行のために

● アルコールチェック

当社では出勤点呼時のアルコールチェックを運転士および車掌をはじめ、社用車・保守用車など運転に携わる者全てに対して実施しています。また、公共交通従事者としての社会的責務の自覚を促すため、業務外でも自宅でチェックできるアルコールセンサーを配布しました。



アルコールチェック▶

● SAS(睡眠時無呼吸症候群) 検査の実施

SAS(睡眠時無呼吸症候群)は、十分な睡眠がとれず、ヒューマンエラーにつながる恐れがあります。事故防止の対策として、運転士全員に対してSASの簡易検査(パルスオキシメータ)を実施し、必要がある場合は、シーパップ治療を義務づけています。